

2015年7月15日

JST と JICA 共同実施事業 「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)」
「モザンビークにおけるジャトロファバイオ燃料の持続的生産」
「Sustainable Jatropha Biofuel Production in Mozambique」 2015 Pre-Symposium in Kanazawa

開催趣旨

2010年に採択された「モザンビークにおけるジャトロファバイオ燃料の持続的生産」の両国における研究成果を発表し、最終報告書作成に備えて研究者間の情報共有を図るとともに、植物燃料による社会の持続可能な発展について理解を得る。

***シンポジウムの使用言語は英語で通訳はありませんが講演前刷りを配布致します。**

研究課題名：「モザンビークにおけるジャトロファバイオ燃料の持続的生産」
研究代表者：東京大学大学院 農学生命科学研究科教授 芋生憲司
研究機関：東京大学、金沢工業大学、久留米大学、日本植物燃料㈱、(社)アフリカ開発協会
相手国：モザンビーク共和国 研究機関：University of Eduardo Mondlane (UEM)国立大学ほか

報告内容：日本国内の研究成果

- プロジェクトの研究概要紹介 (東京大学大学院 農学生命科学研究科 芋生憲司教授)
ジャトロファ油のディーゼル機関への適用性について
(金沢工業大学 工学部機械工学科 小橋好充講師)
- ジャトロファに含まれる毒性物質ホルボールエステル(PEs)の分析と削減法について
(金沢工業大学 バイオ・化学部応用化学科 土佐光司教授)
- ジャトロファ固形燃料の製造法とホルボールエステル(PEs)の分析について
(東京大学大学院 農学生命科学研究科 芋生憲司教授)
- モザンビーク適応品種のジャトロファ選抜と育種について植物
(日本植物燃料株式会社 三本木一夫 研究開発部長)
- ジャトロファ利用における環境影響評価(LCA)法について
(東京大学 昔農英夫 研究員)
- モザンビークにおけるプロジェクトの研究概要と成果 (エドワルド・モンドラーネ大学(UEM)
研究者を招聘)
- ジャトロファ種子の最適搾油条件の検討
- ジャトロファ油の最適精製法について
- ジャトロファ油の保存条件が性状に及ぼす影響について
(エドワルド・モンドラーネ大学(UEM) Biquiza 教授)
- モザンビークにおけるジャトロファ導入による環境影響評価と経済性評価について
(エドワルド・モンドラーネ大学(UEM) Massunda 研究員)

主催：金沢工業大学 研究代表者 経営情報学科 教授 鈴木 康允
シンポジウム幹事 産学連携機構 教授 加藤 聡

日時：2015年7月23日(木) 10:30~15:00

場所：金沢工業大学 イノベーションホール (南校地12号館401室)

連絡先：金沢工業大学 産学連携機構 加藤 聡

921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1

代表電話：076-248-1100 直通電話：076-294-0596

E-mail: skato@neptune.kanazawa-it.ac.jp

